



## 高名なお坊さん(その20)

## 天親菩薩(西暦400年~480年の頃)インドの高僧

天親菩薩(てんじんぼさつ)は世親菩薩(せしんぼさつ)ともいわれるインドの高僧です。非常に重要なことを教えられたので、親鸞聖人は七高僧の2番目にあげて大変尊敬されています。

親鸞聖人は、「天親菩薩が真実の仏教を明らかにしてくだされたなればこそ、親鸞は救われることができたのだ」と、お名前から「親」の一字をもらわれるほど、非常に尊敬しておられます。

ところが、最初は真実の仏教である大乘仏教をそしるような人だったのです。天親菩薩は、4世紀頃、北インドの建陀羅国のバラモンの家の次男として生まれられました。天親菩薩は、小乗仏教(上座部仏教)で当時最も有力だったグループである説一切有部の僧侶について出家しました。



興福寺北円堂の天親菩薩像



そして、説一切有部の教義を集大成した膨大な『大毘婆沙論』を研究し、名声を博しました。『大毘婆沙論』は漢訳で200巻もある膨大な書物なので、それを天親菩薩がまとめられたのが『俱舍論』30巻です。『俱舍論』は日本でも昔の僧侶は全員学んだほどの重要な仏教書となりました。

天親菩薩は生涯にわたって、ものすごい勢いで説法もされ、著作も残されました。

大乘仏教の本も500部書かれ、小乗仏教時代の500部と合わせて全部で千部にもぼるので『千部の論主』といわれます。中でも有名な、人間の心の働きを詳しく解明した『唯識(ゆいしき)』を明らかにされた『唯識二十論』や『唯識三十頌』など、すぐれた著作がたくさんありますが、主著は晩年の『浄土論』です。



天親菩薩(七高僧絵巻)

天親菩薩像(運慶作)

謝のお念仏を称えましょう。



善教寺墓苑 永代合葬墓建碑法要 (2017年8月)

さて、善教寺本堂では、八月十日(木曜日)、盂蘭盆会納骨法要をお勤め致します。日本では一般的に先祖供養のための行事とされていますが、浄土真宗では、お盆の時期にご先祖を偲ぶとともに、無常の理(ことわり)を感じて阿弥陀さまの恩徳を感謝させていただく仏事です。お盆には、すでにみ仏になられたご先祖を偲び、逝つた先(浄土)を想いつつ、お仏壇の前で手を合わせ、報恩感謝のお念仏を称えましょう。

と、ご先祖への感謝の気持ちを、心から味わえると思いますよ。

暑中お見舞い申し上げます。梅雨が明けたとたん、この厳しい猛暑。暑さに慣れていないせいもあるのでしょうか、肌を刺すような太陽の光を浴びて、頭がクラクラします。そんな中、今年も元気に大汗かきながら、読経しております。有り難いことに、最近では、お仏間にエアコンを設置されている家が増えたせいもあり、こうして夏バテ知らずで、奮闘出来ております。お盆がきますので、そろそろ、お気持ちは、ご先祖を偲ばれているのでは？

## 住職レター

ゆかりの寺シリーズ その23

竹中半兵衛 ゆかりの寺  
「禅幢寺 (ぜんとうじ) 曹洞宗」



岩手・禅幢寺は竹中氏と竹中家臣の菩提寺。創建は1494年で、薩摩・金幢寺の僧正碩和尚が開祖。

竹中半兵衛は結核を患い、羽柴秀吉（豊臣秀吉）より京にて静養するように命を受けていました。しかし、もう回復の見込みがないと悟ると、座死することは武士の恥じであるとして、戦場で命を遂げたいと、1579年、豊臣秀吉の中国攻めに病を押して出陣し、三木城攻めの陣中にて亡くなります。享年36歳。



禅幢寺本堂

1558年、竹中重元が岩手禅正某と戦い、その城を攻略し、この地の菩提山に城を新築し領主となる。その子竹中半兵衛は、父と共にこの城に住み、その後、豊臣秀吉に重用された。

1587年、竹中半兵衛の子で、「豊鑑」、「時雨の記」の著者として詩文の才のあった重門が、父の菩提を弔うため墓を禅幢寺に移築し、父を禅幢寺の開基と定め、以後現在に至るまで竹中家及びその家臣の菩提寺となっている。



禅幢寺



竹中半兵衛の墓

今後の法要スケジュール

「孟蘭盆会納骨法要」 (善教寺本堂)

八月十日(木)

午前十時〜 朝席読経  
午前十時半〜 朝席法話  
午後一時半〜 昼席読経  
午後二時〜 昼席法話  
午後三時半 法要終了

講師 中村英龍師

(広島市佐伯区湯来町最広寺)

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」 (善教寺本堂)

八月十六日(水) 午後一時半〜

\* 毎月十六日に本堂において勤めております。

「孟蘭盆会法要」 (柏原説教堂)

八月十八日(金)

午前十時〜 朝席読経  
午後一時半〜 昼席読経  
午後三時半 法要終了

講師 榎崎一大師

(広島市安佐北区白木町順覚寺)



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール [zenkyo@otera.or.jp](mailto:zenkyo@otera.or.jp)